

市指定文化財<工芸品>

きくちせんほんやり  
菊池千本槍

指定日 昭和41年4月15日

所在地 菊池市隈府 菊池神社



後醍醐天皇の建武政府は、鎌倉で謀反を起こした足利尊氏の征討を決めた。建武2年(1335)菊池武重は1千の手兵を率いて朝廷軍の先鋒となって、箱根竹ノ下で足利直義3千の軍勢と戦った。この時、武重の考案により菊池勢は青竹竿の先に短刀をつけ、にわか作りの槍とし、槍隊による槍ぶすまを作って進撃し、足利軍に勝つことができたという。このような武勲を立てた由緒から菊池千本槍が起こったと伝えられている。その後、直ちに槍として延寿刀工に作らせた。

千本槍に使われた一振りは、刃渡り18.5cm、中子(刀身の柄に入った部分)27cm、国清(武政所持)の銘があり、明治35年天覧に供した名刀である。もう一振りは刃渡り24cm、中子7.8cm延寿国吉の作という。槍を短刀に改作するために短く切られたもので、外装は唐草模様の肥後象嵌ぞうがんで作られている。